編集後記

今年は台風の被害が目立ちます。1号2号が沖縄本島を直撃し、2号の通過後は、一夜にして木の葉が茶色に変色するなどの塩害が見られました。近くの公園や学校でも変色してしまった樹木が多く、市街地でこんなにはっきりした「潮枯れ」はいままで見たことがありません。9号は暴風域が40数時間続き、農作物に大きな被害をもたらし、台風15号も弱い勢力ながら、沖縄近海に数日間とどまり観光業に打撃をあたえました。

5月6日沖縄気象台はデイゴの開花宣言を出しました。今年は平年より39日遅い開花だったそうです。その時期、国道沿いや公園ではデイゴの花がたくさん咲いていました。去年は、ほとんど咲かなかったようです。デイゴの花が良く咲くと台風が多いといいますが、もうこれ以上は勘弁してもらいたいものです。皆で、「うーとーとー」して台風を吹き飛ばしましょう。

冒頭に掲載された「日医総研シンポジウム」の報告は、ぜひご一読下さい。医療事故調査制度を日医は不可欠なものと考え、制度の実現を模索しています。医療事故から刑事措置への流れを断ち切り、医療を積極的に提供できる環境を整えてほしいものです。

「男女共同参画フォーラム」の報告で、秋田大学では40％が女子学生との発言があります。びっくりしました。女性医師の労働環境整備は、医療を支える重要課題となっています。

沖縄県医学会総会特別講演、永井友二郎先生の「人間的な良い医療を目指して プライマリ・ケアこそ医学の本道」は医療の本質を語る内容と思います。特に、本文中の法律家の思いには、なるほどと肯かざるを得ません。

東日本大震災から、早くも半年が経ちました。福島第一原発事故の影響もあり、復興事業は遅々として進んでいません。新しい内閣の指導力が注目されます。沖縄県医師会は被災地支援として、岩手県大槌町に大震災直後から5月31日まで15陣の医療支援チームを派遣いたしました。各派遣チームの報告が5月号より順次掲載され、今月号は、最終派遣チーム15陣（玉井修先生）の報告になります。最終15陣は撤収を成功させる大切な役割を担い文中にも「撤収は誰かがもう良いと言ってくれる事も無く、始まりも終わりも結局は自分たちで決めなくてはならない」とあり、引き際の難しさがうかがわれます。撤収が被災地の方々にとって、不利益とならない配慮が必要になります。まさに、「立つ鳥跡を濁さず」の心境であったのではないでしょうか。お別れの挨拶の時、期せずして起きた拍手と「ありがとう」の言葉は、沖縄県医師会にとって何物にも替えがたい宝となりました。本当にご苦労様でした。

分科会・研究会の報告では、沖縄県外科会（大久保和明先生）沖縄県整形外科会（知念弘先生）より会の変遷、現在の活動などが紹介されています。

生涯教育コーナーでは、「発作性夜間ヘモグロビン尿症」（友寄毅昭先生）について詳しい解説をいただきました。

インタビュー・コーナーでは、前田和子先生に沖縄県立看護大学学長就任にあたっての抱負などをお聞きしています。

月間（週間）行事お知らせコーナーでは、骨と関節の日（上原昌義先生）・目の愛護デー（江夏亮先生）・麻酔の日（島袋勉先生）・臓器移植普及推進月間（宮島隆浩さん）・骨髄バンク推進月間（狩俣かおり先生）・沖縄糖尿病週間（高橋隆先生）・ピンクリボン運動月間（上原協先生）に因んで、それぞれ造詣の深い先生方より寄稿をいただきました。

若手コーナーでは、「普通の医療のできることの幸せ」清水徹郎先生・「マッチング」金城康幸先生に寄稿をお願いいたしました。

発言席の、チベット高地での血中酸素飽和度測定は、興味深い結果ですが、広報委員より一部補足をさせていただきました。

今月の随筆は、四季（大城喜寿郎先生）・天体写真を撮ってみませんか（足立源樹先生）・沖縄市場「美らちゅら」（池村富士夫先生）の3題です。

今月号も、会員の皆様の寄稿、投稿に支えられて紙面が構成されています。厚く、御礼申し上げます。

広報委員　池村 剛